

CASBEE® 名古屋

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE 建築環境総合性能評価システム (2016年改訂) | 使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)ミドリ安全名古屋ビル	階数	地上4F
建設地	名古屋市南区弥次工町四丁目6-6-1,7	構造	S造
用途地域	都市計画区域内 市街化区域、準防火地域	平均居住人員	150人
地域区分	6地域	年間使用時間	1,960時間/年(想定値)
建物用途	事務所,工場	評価の段階	基本設計段階評価
竣工年	2024年3月 予定	評価の実施日	2023年4月18日
敷地面積	981 m ²	作成者	
建築面積	582 m ²	確認日	2023年4月18日
延床面積	2,137 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.2

環境品質 Q: 37, 環境負荷 L: 46, BEE = 1.2

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算: 30%☆☆☆☆ 60%☆☆☆ 80%☆☆☆ 100%☆☆ 100%超☆☆

①参照値: 100% (kg-CO₂/年・m²)

②建築物の取組み: 46% (kg-CO₂/年・m²)

③上記+②以外のオンサイト手法: 80%

④上記+オフサイト手法: 80%

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q2 サービス性能: 5.0

Q1 室内環境: 2.8

Q3 室外環境(敷地内): 2.8

LR1 エネルギー: 3.9

LR2 資源・マテリアル: 3.2

LR3 敷地外環境: 3.2

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.9

Q1 室内環境 (スコア: 2.8)

音環境	3.6
温熱環境	2.0
光・視環境	2.8
空気質環境	3.7

Q2 サービス性能 (スコア: 3.0)

機能性	2.8
耐用性	2.9
対応性	3.3

Q3 室外環境(敷地内) (スコア: 2.8)

生物環境	3.0
まちなみ	3.0
地域性	2.5

LR のスコア = 3.5

LR1 エネルギー (スコア: 3.9)

建物外皮の	5.0
自然エネ	3.0
設備システ	4.0
効率的	3.0

LR2 資源・マテリアル (スコア: 3.2)

水資源	3.4
非再生材料の	3.3
汚染物質	3.0

LR3 敷地外環境 (スコア: 3.2)

地球温暖化	3.7
地域環境	2.9
周辺環境	3.0

3 設計上の配慮事項	
総合	室内環境や建物性能などで利用者が快適に過ごしやすい環境になるよう配慮している。
その他	特になし
Q1 室内環境	吸音材により吸音率を高めることにより、残響が抑制されて会話の聞き取りやすさを向上させている。F☆☆☆☆をほぼ全面に使用しており化学汚染物質に対する配慮を行っている。
Q2 サービス性能	一人当たりの執務スペースが広く、室内の機能性・使いやすさに配慮している。天井高に余裕があり、建築の利用者は空間を広く感じ、景観を楽しむことができる。
Q3 室外環境(敷地内)	植栽を行い、良好な景観を形成している。
LR1 エネルギー	建物の外皮の熱負荷を抑制し、過ごしやすい建物を計画している。
LR2 資源・マテリアル	解体廃棄時におけるリサイクルを促進する対策を行っている。
LR3 敷地外環境	自動車を路上駐車させないよう、適切な駐車スペースを確保している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

(仮称)ミドリ安全名古屋ビル

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル
 ■評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				3.8
LR1	エネルギー	3.9	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.7	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.05	
2. 自然共生				2.9
Q3.1	生物環境の保全と創出	3.0	0.102189	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	地域性のある材料の使用※1	無	0.0102189
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	3.0	0.0510945	
3. 循環型社会				3.3
LR2.1	水資源保護	3.4	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	3.3	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	2.3	0.01875	

結果

1. 温暖化対策	評価点 = 3.8
	
2. 自然共生	評価点 = 2.9
	
3. 循環型社会	評価点 = 3.3
	

重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。